

気迫と熱気に包まれて

第25回 片木杯 青少年育成剣道大会

12月8日(日)、大山中学校

校体育館を会場に青少年育成剣道大会が行われました。

町内企業の(株)片木アルミニウム製作所(片木威社長)

からの寄付により運営されているこの大会には、町内

をはじめ県西部から約200人の小中学生が参加し、日頃の鍛錬の成果を競いました。

また、各部門3位までの入賞者には、同製作所がオリジナルで作成された金・銀・銅のアルミ加工の盾が贈られます。

大会終了後には、恒例の合同練習があり、参加者は、片木社長や各団体の指導者と一緒

にさわやかな汗を流しました。

した。

大会終了後には、恒例の合同練習があり、参加者は、片木社長や各団体の指導者と一緒

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。

にさわやかな汗を流しました。



▶永年の支援に対し、感謝状を贈りました



▶間合いをはかって



▶「そこだ! 打て」片木社長の指導稽古

「片木杯青少年育成剣道大会」の開催にあたり、片木社長が寄稿されました

「元気」の「馳走

12月の初め、大山町青少年育成剣道大会が行われる。弊社大山工場のある地元大山町で感謝の意を込めて開催している剣道大会で、今年、25年を迎える。入賞者には弊社オリジナルのアルミ製の盾を授与する。

会場は大山中学校体育館。季節柄、館内はかなりの寒さで、外では雪や吹雪のときさえある。そんな寒い中でも、少年・少女は皆、元気いっぱい「メイン」「ドウ」「コテ」と大きな声が体育館にこだまする。そうこうするうちに、体育館内が、すき間風に負けにくいぐらいの熱気に包まれる。

この春からスポーツ少年団に入った初心者の子が、自分の身長より長い竹刀に振り回されながら、黄色い声を張り上げ、がんばっている。思わず「敢闘賞は、あの子に」と、プログラムの名簿に丸をつけてしまう。皆、愛おしい。しかし試合である以上、参加者は真剣かつ必死である。試合に負けて泣いている少女もいる。

さらにこの大会では、試合後に合同稽古と称して、参加者、審判の先生方、手伝いの先輩高校生など全員で立会い稽古を行う。私も剣道経験者なので、この稽古に参加する。が、常日頃、稽古をしていないせいか、へとへとになり、早々に



面をはずしてしまふ。情けないことに息があがり、脚もパンパンに張っていることに気づく。アキレス腱が切れないように、稽古等の準備をしておこうと毎回反省するのだが、忙しさにかまけて忘れてしまふのだ。

試合は男女別、学年別なので、参加者が少ない組は全員が入賞して、アルミ製の盾が授与される。大会終了後、その盾を大事そうにぎゅつと胸に抱き、笑顔で帰る少年・少女の「さようなら!」という元気な声を聞くと、私も自然に笑みがこぼれてしまう。

大会が終わった夜は、この季節旬を迎える松葉蟹を、地元漁師が経営している店に食べに行く。刺身、天ぷら、甲羅焼き、焼き蟹、蒸し蟹、蟹すきなど、蟹のフルコース。服を汚しながら、せつせと蟹の身をとっては、口に運ぶ。口はしゃべることを忘れ、旬の元気をわけていたのだ。

口いっぱい蟹をほおばりながら、将来、弊社に入社した青年が「10年前、剣道大会に参加したことがあるんですよ」と話してくれる場面を想像する。

私にとって毎年この日は、地元から「元気」をご馳走になる至福の一日になる。